

## 令和7年度まちづくり懇談会内容

日時：令和7年11月28日（金） 18：30～

場所：里見地域コミュニティセンター

出席者：5人

- 1.開会
- 2.町長説明
- 3.懇談
- 4.閉会

### 【懇談・そのほか質疑など】

■水資源の訴訟	
町民	水資源の訴訟について、いつまでに終わらせるという期間は決まっているのか。裁判を続けて粘れば守れるのか。
町長	期限は特に決まっていない。ただ、裁判は長引けば長引くほど職員の対応コストや弁護士費用などがかかってくるので、意味なく伸ばす必要はない。現時点で裁判の有無に関わらず、その土地の所有権が誰かに移るということはない。仮に第三者に今の訴訟されている土地の所有権が移っても水が止まることはありえない。
町民	水が止まることはないということは、水道料が上がることもないということか。
町長	水には水利権があり、そもそも該当の土地が水源地ではなく、水源地の緩衝地である。

■ニセコ高校の改革	
町民	将来の地域のことを考えると、教育は重要だと思う。卒業生の中から多くが地元に戻ってきて、さらに地域の発展に寄与してくれる人が出てくるということが一番ニセコ町にとって幸せなことだと思う。毎年建設費がどんどん上がっていくので、早いうちに進めるべきだ。
町長	さまざまな取り組みを進めていて素晴らしいと思っている。一方で、高校を軸として、小学校・中学校・幼児センターの義務教育と、さらに大人の教育リスキリングも含め、教育のモデルを作れば、まちの魅力アップにもつながると考えている。

■建物建設・土地売買	
町民	新規の建物が多く建設されているが、きちんと有効活用されているのか。空き

	家にならないか心配だ。だんだん廃墟になっている所もある。
町長	国の法律や憲法を超えて進めることはできないため、現状、ニセコ町では都市計画を引くことができない。市街地の建物については、中古物件も高額で売買され、民泊やシェアハウスとして活用されている建物がかなり増えている。それに対して、何らかの方法で制限をしていかなければならないと思っている。民泊は基本冬しか動かないので夏は空き家になっている。また、綺羅街道は景観を整備したものの、人の動きが少なくなっている現状がある。何かしら活用していきたいと考えている。
町民	外国人に高額で土地や建物を売却したいという声を聞いている。今はインバウンドで潤っているが、今の若い世代が大人になったとき、インバウンドがなくなって土地も高騰し、外国人所有の建物ばかりになってしまうのではないかと。ニセコ町に悪いイメージが付いてしまう。どのように先を見据えているのか。
町長	環境整備の取り組みは公共として取り組めることと、民間へお願いすることを整理していく。交通課題や環境美化、利便性の向上、さらに市街地の魅力UPといったことに宿泊税を使っていくことは良いと考える。冬にインバウンドが集中しているので、夏季の日帰り・宿泊が増えれば均等化され、オーバーツーリズムの課題解決になると考える。行政としてそういった取り組みを働きかけていきたい。個人所有の土地や建物について、町の方でうまく活用してほしいといったような意見も数件受けているため、土地や建物の情報があればぜひ相談してほしい。町の中心部が民泊などで空洞化してしまうことは避けたい。

■ニセコ高校	
町民	新たに高校寮を建設しているが、それだけ生徒を呼び込めるのか。
教育長	今まで農業施設だった教室を今後2年ほどかけて改修し、全日制総合学科に対応できるような改築を進めなければならない。3年間でどのように入れ替えていくかはシミュレーションしており、改修を進めていけば十分だ。トイレなどの施設設備は改修しなければならない。1学年70人となるので、全校生徒約200人となる。2、3年後、完全に改修が終わるよう校舎改修を進める。
町民	今はまだ改修を始めていないか。
教育長	既に一部改修を進めている。寮も含めて、物価高の影響もあり、できるときにハード面を整備しなければならないが、来年4月の入学生徒を受け入れられる状態を迎えられそうだ。